

リンゴシジミ

Fixsenia pruni

シジミチョウ科

名前の由来

幼虫がリンゴを食べるシジミチョウの意味。(しかし少なくとも日本では幼虫がリンゴを食樹にした例はない) シジミはシジミ貝に大きさや形、メスでは色も似ていることからつけられた名。漢字名：林檎蛭



リンゴシジミ

チョウ標本：吉原利之氏作成・所蔵

特定種

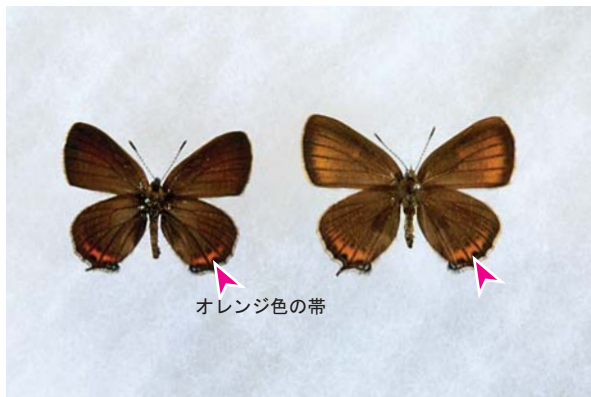
北海道レッド希少種。

形態的特徴

翅の裏面がオレンジ色っぽい中型のシジミチョウ。
翅表は暗～淡褐色、後翅外縁近くにオレンジ色の帯が現れる。
メスはやや大型、翅形は丸みを帯び、後翅表のオレンジ色の帯はオスに比べてはるかに大きく発達し、前翅にも外縁近くにオレンジ色の帯をあらわすが、その色彩はオスに比べて明るく鮮明である。

類似種と見分け方

特になし。



オレンジ色の帯

リンゴシジミ。表（左がオス、右がメス）



オレンジ色っぽい裏側

リンゴシジミ。ウラ（左がオス、右がメス）

チョウ標本：吉原利之氏作成・所蔵

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
卵期				■								
幼虫期	■											■
蛹期			■									
成虫期			■									

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ

生育環境・分布

エゾノウワミズザクラの生える河畔やスモモの植えてある民家周辺などに見られる。

分布：国外分布は、ヨーロッパから極東アジア。国内分布は、北海道のみ。北海道内では、札幌低地帯から南西

の地域を除く全域に分布するが産地は局部的。

十勝地方では、平野部から山間部の林にかけて分布するが、産地は減少している。

繁殖生態・寿命

年1回発生。成虫は6月中旬～7月中旬に出現。越冬態は卵態。寿命：不明。

他生物との関わり

*幼虫はエゾノウワミズザクラ、スモモを食樹とする。
*成虫の吸蜜植物はヤマブキショウマ、シロツメクサ、セイヨウタンポポ、シャク、オオハナウドが確認されている。

*図鑑等によると、幼虫の寄生率は低く、寄生蜂の報告はないが、十勝産のリンゴシジミの飼育観察で寄生蜂の出現が1例確認されている。種の同定については行われていない。

幼虫の食性（食樹）

エゾノウワミズザクラ、スモモ。



エゾノウワミズザクラ。リンゴシジミ幼虫の食樹



エゾノウワミズザクラにつく
リンゴシジミの幼虫

撮影-吉原利之

興味深い話

■幼虫の色彩は食樹の葉や茎の色によく似ていて、蛹になると今度はまるで鳥のフンのような黒と白の模様になる。

■スモモでカラスシジミと混生する場合、寄生蜂による寄生率がカラスシジミの方は極めて高いのに対し、リンゴシジミにはほとんど寄生していないという。

■十勝地方のアイヌ語では、シジミチョウ類を「スプンマレウレウ」、チョウ類一般を「マレウレウ」という。



リンゴシジミ

撮影-平林照雄

配慮事項

食樹であるエゾノウワミズザクラなどが必要。

参考文献

「原色蝶類検索図鑑」猪又敏男 北隆館 1990
「日本のチョウ」海野和男、青山潤三 小学館 1981
「原色昆虫大図鑑 I (蝶蛾編)」北隆館 1978
「十勝の蝶」大和与三追悼集 十勝蝶の会 1993
「北海道の蝶」永盛拓行・永森俊行・坪内純・辻規男 北海道新聞社 1986
「原色日本蝶類生態図鑑 (III)」福田晴夫・浜栄一 他 保育社

1984
「北見の蝶」木村辰正 北見市教育委員会 1994
「エコロン自然シリーズ 蝶・蛾」白水隆・黒子浩 保育社 1996
「名前といわれ昆虫図鑑」栗林慧・大谷剛 偕成社 1987
「知里真志保著作集 別巻 I 分類アイヌ語辞典 植物編・動物編」知里真志保、平凡社 1976

魚
類

底生
動物

両生
類
爬虫
類

トン
ボ

チョ
ウ

樹
木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳
類

(水辺)
鳥類

(草原・
ワシ・
タカ)
鳥類
樹林